

停電でもあったか室内

薪ボイラーで全館暖房

3月の東京電力福島第一原子力発電所の事故を受けて節電の取り組みが行われる中、上越市栄町2の塚田こども医院（塚田次郎院長）は非常時でも暖房が使えるよう消費電力が少ない薪暖房を導入することになり、7日に薪用ボイラーなど関係設備の竣工式を行った。塚田院長は「非常時にも医療行為ができるようにしたい」と話している。

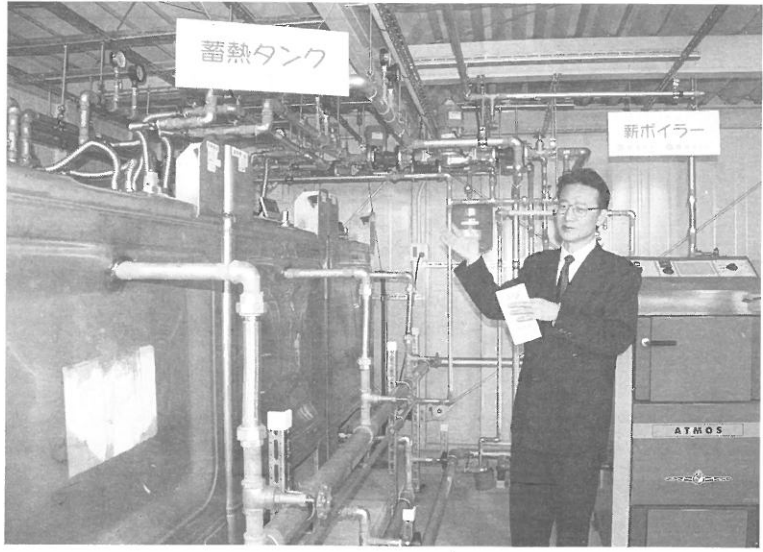
原発事故後、節電が求められる中、再生可能な自然エネルギーの必要性を感じた塚田院長。自宅を使う薪ストーブに注目し「院内の暖房を薪でまかなえないか」と考えた。灯油などの化石燃料と比べ薪は再生期間が短く自然エネルギーとして注目されている。欧州では自宅や事業所などに暖房の燃料に薪を取り入れており、導入を決めた。

薪用のボイラーは国内にはなくチェコ製を購入。温水を溜める蓄熱タンクなども整えた。院内敷地には専用の建屋も設置。総工費は千数百万円で約2か月で完成させた。ボイラーは二次燃焼システムでクリーンな煙を排出するという。

薪ボイラーで沸かした温水は、同院や併設するわたぼうし病児保育室など延床面積約700平方

メートルの全館暖房や給湯などに使われる。また来年春には太陽熱収集パネルを設置する予定で、薪ボイラーとの併用で燃料にするという。

同院では1995年の7・11水害や今年3月の東日本震災などを契機に発電機を購入したほか、断水時に対応するための地下水タンクを設置している。今回の薪ボイラーの導入で停電時にも発電機を活用して院内は暖房が使えるという。塚田院長は「災害でも患者が利用できる医院にしていきたい」と話している。



薪ボイラー（右）と蓄熱タンクを説明する塚田院長